

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2775502004
法人名	株式会社FKKサービス
事業所名	グループホームうれし家・たのし家
訪問調査日	平成20 年 3 月 25 日
評価確定日	平成20 年 5 月 16 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2775502004
法人名	株式会社FKKサービス
事業所名	グループホーム うれし家・たのし家
所在地	大阪府八尾市東山本町6-9-35サンピアハイツ I-2F (電話) 0729-44-8787

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年5月16日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	67 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真真会八尾総合病院、藤木クリニック、ウラノ歯科、ひがしデンタルクリニック他
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年4月に開所された比較的新しいグループホームである。4階建てハイツの2階部分を改装してうれし家・たのし家の2ユニットを構成している。認知症についてよく理解している管理者のもと、モットーである「人と人の温かいふれあいの心」を大切に・・・と共に、運営方針の1項である「本来あるべき生活能力を引き出す」ことに向けて、全職員が一致してケアに励んでいる。利用者のペース、希望を大切にし、散歩、入浴、食事など柔軟に対応している。作業療法、体操療法、音楽療法、回想法等織り交ぜたケアを毎日行い、遠足、節句、花見、運動会等々季節に合わせた催しを毎月開き、誕生会は利用者ごとに開催している。利用者は元気のよい職員に牽かれて元気な日々を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題にもあるように、介護計画書は利用者のもとより、家族が責任を持って利用者を見守る大切な項目である。施設への関心を持ってもらうためにも、介護計画書は家族も共に参加して作られることが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は全職員が理解している。今回の自己評価は職員会議における意見等を集約して作られている。自己評価することにより課題を見つけだし、改善につなぐよう努力している
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はホームからの報告や、計画の説明に終わっている。出席者の意見、提案が出やすいような雰囲気を作り、ホームにとっても地域にとっても意義のある会議にするような働きかけを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの行事に家族にも参加を呼びかけたり、来苑されたときに声掛けをしたり、毎月の請求書送付時に利用者の様子をお知らせしたりして、家族との対話の機会を作っているが、家族からの相談などはすくない。いつでも、どんなことでも気軽に話してもらえるような雰囲気作りも必要かもしれない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは地域の行事には参加もし、保育所の幼児らの慰問訪問を受けたこともあり、地域の一人として孤立することはない。さらに密接な関係を作り地域のグループホームとして位置づけられることが望ましい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「人と人との温かいふれあいの心」を大切に、日々の福祉サービスに努め、入居者や、地域の方々と共によりよい地域福祉の実現に寄与する。を掲げ、職員一同に共有化を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入口に運営方針と共に理念を掲示し、職員が交代で読み上げ、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われるお祭り、どんど焼き、地蔵盆その他のイベントには、殆ど全員で参加している。また、地域の保育所の幼児の慰問の訪問を受けたりして、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解している。自己評価は、毎月開催している職員会議に於ける全員の意見をまとめたものであり、そこで見出した課題に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地区民生委員、高齢者団体役員、市介護保険課、包括支援センター、家族代表、利用者代表の出席の下2ヶ月に1回開催されている。	○	運営推進会議では主にサービスの実際、取り組み状況の報告に終わることが多い。むしろ、出席者から忌憚のない、建設的な意見を引き出せる雰囲気作りと、それらを、運営、サービスの向上に活かすような会議にすることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市当局と機会を作ってはコンタクトしサービスの質向上に取り組んでいる。さらに管理者以外の職員にも行政とのつながりを深めるべく努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来苑されたとき、また何か変化が起こったときには電話で、また、月一回請求書を発送するときに利用者の近況を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に家族等から不満、苦情を聞くことはないが、利用者からは折に触れ希望を聞いており、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時に十分に当ホームの運営方針勤務実態を説明するとともに約1ヶ月の試用期間で採否を決め採用後の離職を少なくするようにしている、やむなく離職者が出た場合、新しい職員は影響の少ない部署に配置し馴染みの関係を作るよう配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り時間を作り外部研修に出られるよう配慮し、毎月交代で履修させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と意見交換をしたことから交流を始めている。互いに職員同士、交換し合って、研修の場を拡げるよう準備を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
けんしゅうにばwn					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後しばらくの間はスタッフが常に寄り添い周りの利用者と馴染める環境作りに努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は平均的に若いので、両親、或いは祖父母にものを教えられるように、ごく自然に聞いたり、教えられたりしている。時に、夢中になって利用者とゲームを楽しむこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者が、2週間に1回ぐらい利用者の居室やフロアで、2人で対話し今の生活、環境についての満足度を聞き、その結果によっては介護計画の見直しを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーの作成した介護計画を下に職員会議で話し合い、ケアのあり方について検討し、実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の職員会議で全利用者の介護計画の見直しを行っている。また、利用者に変化があった場合関係者、家族、と本人を中心に新たな計画を作り直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした支援を行う準備、体制はあるが、現在まで要望としてはでていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診があり、また、緊急時の対応も出来るよう態勢は整っている。かかりつけ医の受診を希望される利用者は、家族の協力を得ながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居された時から本人、家族、医師と終末期のあり方について話し合い、文書も交わしている。希望があれば、ターミナルケアもすることを文書化し職員全員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応に関しては徹底して利用者の尊厳を傷つけることのない様守られている。個人情報の保護も同様である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のこと、食事時間のこと、外出のこと等々一人ひとりのその日の希望を聞き柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は品数豊富であり、利用者によっては細かく、或いは軟らかくの配慮はなされている。食材の仕入れ、盛り付け等の準備、後片付けの手伝いなど、利用者の多くがこれに携わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まりとしては週3日であるが、希望にあわせて、他の日、他の時間にも入浴できるようにしている。お湯はその都度新しく代えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日廊下やホールの掃除をし、体を動かすケアをゲーム性を取り入れ日課としている。運営方針の中の「本来の生活能力を引き出します」を重要な課題として特に運動能力を引き出し楽しみながらの気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、野外活動等々外出の支援を行っている。毎日2回、多い日は3回外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に通じるエレベータは家族と話し合い施錠しているが、その他は全て開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っている。職員の災害時の役割等も決められている。	○	避難訓練はもう少し回数も増やし災害時に混乱しないよう普段から心身の準備を整えるよう、さらに、地域の人々や警察、消防、その他の行政機関とも連携し協力が得られるよう働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスとカロリーを考えた食材を調理し担当職員が利用者ごとの食事量をチェックしている。水分補給についても食事以外にティータイムや随時にチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口前の広いエントランスには鉢の木や花のなかで水が流れており静かな落ち着いた雰囲気醸している。ベンチがあり利用者は自由にくつろげる。ホームの中には明るいホールがある。食堂、トイレ、浴室などは清潔でゆとりがある。居間には花や人形が飾られゆったり過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台、エアコンの他は全て利用者が使い慣れたもの、お気に入りの調度品が持込まれていて今までの生活との違和感のない様配慮されている。日当たりのよい明るい部屋である。		